国体を機会に正しい交通を身につけ、交通事故を新津市から一掃して、「にいつ」とひと目でわかる「いい交通をつくりあげましょう。

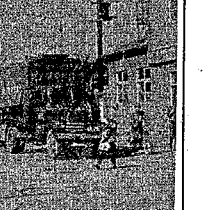
五月十一日から二十日までの春の交通安全運動に市内小学校の児童から交通について作文を書いていただき、書いた児童の録音で有線放送をいたしました。

純心の児童の目にうつる交通は、大人が反省しなければならないものがたくさんありました。

街頭指導に当たっても交通規則を一番よく守るのが、保育所、幼稚園の幼児と小学校の児童、次が中学校の生徒です。

高校生や通勤者、一般の通行人の大人は、一段と交通規則を実践して下さるようお願いします。

多数集まりました児童の作文の中から抽出し掲載いたしました。



幼児でも安心して渡れる横断道路に

こうつうきそくを まもりましょう

第一小学校三の八　かつ山みつぎ

このあいだ、ぼくたちの組の、くり山くんがバイクにはねられました。げんいんは、バイクにいくときの、おかあさんが、「ちゃんとしっかりにぎって、どんなはしょってもよこぎるので、ぼくがおかあさんに「だめだよ、ここはよこぎるんじゃないよ」といいました。

交通じこのげんいんは

1、わきみうんてん

2、いねむりうんてん

3、よっぱらいうんてん

などと書われています。

でも歩いている人もちゃんいをすることがたくさんあります。

1、右がわを歩く。

2、おうだんほどうを歩く。

3、車の近くを歩かないいろいろあります。

とくに、ぼくがかんじることは、おとなの人が正しいきそくをまもらないで道をよこぎることです。

ぼくのおかあさんも、「正しいきそくをまもっているので、おうだんほどうをわたるときも、ぼくはあんしんしてむねをはってわたります。

そして道をよこぎるとき、ぼくは手をあげてわたります。するとじどうしゃも、バイクも、じてんしゃの人も、みんなとまってまってくれます。